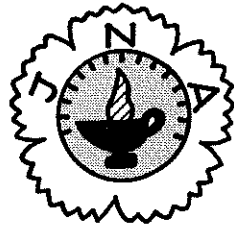


日本看護協会会歌

作詞 古屋かのえ
作曲 高田三郎



一、あけぼのの空
色映えて

匂い咲くなり
愛の園生

みどり女吾等
睦みつつ

培いゆかな
限りも知らに

二、人健やかに
安かれと

天使としも
奉仕うなる

女と生れし
この幸を

共に歌わな
永久に豊かに

三、ともし承ぎ来し
み燈の

行手はるかに
輝けば

吾等が道の
いや崇く

誓いぞかたき
看護協会

序



支部史編集委員長

元支部長 赤井 つる

本誌をまとめるに際して支部の流れの概略を述べさせていただきます。

昭和22年、敗戦の混乱と窮乏の中から「GHQ」の指導により東京に日本看護協会が設立された。更に全国各県に次々と支部が結成され「千葉県支部」は翌23年に数少ない有志の熱意によって産声をあげたのである。

以来約半世紀の歳月が流れ幾多の変遷を経て今日に至っているが、発足当時物心両面の乏しい中のご苦労なされ今日の基礎を築かれた大先輩に心から敬意を表するものである。

半世紀に近い年月支部との出あいを重ねた看護職はどんなに多くいることであろう。長い間支部は私達のよりどころとして親しみ、はぐくまれて来た存在であるが時代の流れとは言え最後の日を迎えることになったのである。

即ち、平成5年3月31日を以って日本看護協会千葉県支部は発展的解消を遂げ、社団法人千葉県看護協会に統合されたのである。

前述したように保助看三職能の集団である協会は職能の持つ特性によりさまざまな変遷を経て運営の円滑を図って来たのであるが昭和の後半に至り各県が法人格を取得して看護会館の建設が進められた。従って各県は支部と法人の2本建運営を余儀なくされることになり複雑な各県の運営が数年間続いたのである。このことが支部長会を経て本協会総会に「組織改正問題」として提案されてより5年余を経て改正案は可決されて組織統合が実現したのである。

保助看三職能を統合した支部は昭和57年4月から平成5年3月31日までの11年間であるが看護界が政治的に社会的に大きな飛躍を遂げた年代である。

統合にあたり平成4年度支部通常総会に於ける議決事項は「統合年月日の決定」「会費の移行」「役員任期」等であった。平成5年度の終結総会では「財産の引つぎ」及び「支部史の編集」が提案された。長い間、からだのすみずみまでしみこんだ支部の名残りは尽きないが総会における提案のとおり「日本看護協会千葉県支部史を編集させて頂く任を与

えられた。

支部のあゆみを充分お伝えすることはできないが過去の存在となった支部への想いをこめて皆様の協力により発刊の運びとなったことを感謝する。

昭和57年4月支部設立総会に漕ぎつけるまでの「支部規約」の作成及び設立総会の準備には「支部協議会」がその役割を果しているので巻末にその活動状況を掲載している。

目 次

日本看護協会歌			1
序	支部史編集委員長	赤井 つる	3
発刊のことば	(社)千葉県看護協会会長	渋谷 禎子	5
支部史発刊によせて	前千葉県衛生部長	境 宣道	8
支部史の発行に寄せて	千葉県医師会長	渡 辺 武	9
看護会館設立当時の思い出	元千葉県衛生部長	杉 山 太 幹	10
発刊によせて	日本看護協会会長	見 藤 隆 子	12
千葉県支部の誕生の思い出	元千葉県支部長	赤 井 つる	13
千葉県支部に在籍して想うこと	元千葉県支部長	浅 野 花 子	15
千葉県支部創立40周年記念			
記念式典			17
受賞者氏名			24
支部の沿革			
年 表			28
組織機構			34
表彰者名簿			
叙勲及び大臣表彰			36
千葉県知事表彰			39
日本看護協会会長表彰			46
理事会及び総会			
理事会開催状況			47
総会開催状況			75
職能委員会活動			
年度別支部保健婦職能委員会			79
年度別支部助産婦職能委員会			85
年度別支部看護婦職能委員会			90
年度別支部保健婦職能集会			95
年度別支部助産婦職能集会			98
年度別支部看護婦職能集会			101
年度別支部保助看合同職能集会			105
関東甲信越地区職能委員長会			107
全国職能委員長会			111

支部常任委員会

各委員会活動	117
教育事業実施状況	128
広報活動の流れ	139

支部会計の推移

支部会計の推移	141
年度別支部会員数及び支部会費一覧表	147

会員の回想・トピックス

旭中央病院	赤坂守保	149
千葉県医療技術大学校	土岐初恵	150
元千葉県衛生部主幹	大藪智子	150
千葉大学医学部附属病院看護部長	小澤美恵子	151
成田赤十字病院看護部長	小川智恵子	151
元小見川准看護婦学校教務長	布留川輝子	152
医療法人三矢会八街総合病院看護担当理事	山崎絹子	153
佐原保健所次長	高木きく	154
北習志野花輪病院総看護婦長	大野律子	155
元千葉大学医学部附属病院副看護部長	北村よし乃	156
元東京歯科大市川総合病院副看護部長	湊久代	157
千葉市高洲保健センター	漆崎育子	158
元千葉県立衛生短期大学教授	木田もと	159
千葉大学医学部附属病院副看護部長	大塚清子	160
前千葉市立海浜病院看護部長	佐伯幸子	161

支部役員委員名簿

年度別役員委員名簿	163
年度別代議員名簿	188

支部規約	201
------------	-----

支部協議会

協議会記録	211
-------------	-----

年別支部長名簿	221
---------------	-----

編集後記	222
------------	-----

発刊のことば



社団法人 千葉県看護協会

会長 伊勢 禎子

日本看護協会千葉県支部は、半世紀に亘る歳月を県内看護の中心として活動して参りましたが、より効率的な看護活動を行うために発展的解消を行い、組織は千葉県看護協会に平成5年4月1日を以って統合されました。

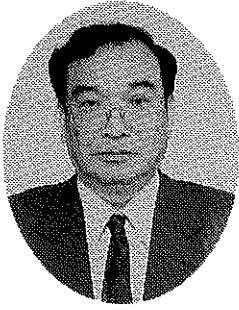
この発展的な支部終結にあたり、記念事業の一環として昭和57年から平成4年までの11年間の活動を支部史の記念誌として発刊することになりました。

省みますと支部発足当初は会員数4,600人余りの状況から、現在では、約2倍の10,000名を越える大きな組織力となり、かつ、協会活動も大幅に拡大し県下でも有力な団体として認められるようになりました。

このように本会が大きな発展をとげましたのは、支部活動時代から関わってこられた多くの先輩諸姉の英知と情熱によって培われたことを感じ、数々の努力とご苦勞に対し感慨深いものがあります。

又記念誌の発刊にあたり当時の支部活動のながきに亘り惜しめないご指導、ご支援をいただきました歴代千葉県衛生部長様をはじめ歴代支部長、諸先輩の心のこもった活動内容や思い出等々寄稿のご協力により、目的の記念誌発行に至ることができましたことを大変うれしく心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、本誌の編集につきましては膨大な資料を類別し必要事項の掲載に至るまで大変な時間と労力を傾け中心となって労をとられた赤井つる前会長をはじめ本誌編集委員の方々に深く感謝申し上げますと共に、本誌に営々と積重ねられた内容をふまえた今後の協力発展の一助として生かされることを願ってやみません。



支部史発刊によせて

前千葉県衛生部長

境 宣 道

昭和23年、社団法人日本看護協会千葉県支部が誕生してから既に半世紀に近い時が流れています。

日本看護協会千葉県支部は、日本看護協会活動の一翼を担い、これまでの永い歴史の中で看護職者の資質の向上及び人材確保を目指した活動、また看護業務や処遇の改善に対する努力、さらには社会的地位の向上のための活動等々に熱心に取り組んでこられました。これらの制度や業務に関わる取り組みは、昭和57年7月の社団法人千葉県看護協会設立後は、支部と県看護協会表裏一体となって運営されてきましたが、千葉県看護協会活動が名実ともに成熟したことを期して、平成5年に組織統合が行われ支部活動を発展的に解消し、新たな第一歩を踏み出されました。

今では一万人におよぶ会員を擁する千葉県内屈指の職能団体に成長され、ますますその活動は充実してきているところであります。このように、貴会が千葉県内の看護職能団体として会員の資質の向上のための活動のみならず、広く県民の健康と福祉の向上のための活動を展開されておりますことは誠に意義深いことと感ずる次第です。

今後、貴会がますます独自性を発揮して会員の皆様と共に輝ける道を歩まれることを切望いたしますとともに、県としてお願いしておりますナースセンター事業等の委託事業についてもその成果が、貴会の飛躍的な発展とともに高まるものと確信しております。

今般、支部活動を総括した結実の期間でありました昭和57年からの11年史を発刊されることは、貴重な活動記録が記念史として遺され、貴会にとって誠に意義深いこととあります。この記念史を見事にまとめあげた関係者の皆様のご尽力に敬意を表する次第です。

高齢社会が急速に進展するなかで、看護職の役割が増大する今日、貴会の活動に対する県民の期待は大きいものがあります。貴会のますますのご発展を祈念し、ごあいさついたします。

支部史の発行に寄せて



千葉県医師会長

渡 辺 武

このたびの支部史発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

貴会は、昭和23年に発足し、以来半世紀にわたり県民の保健衛生の向上に尽力されておりますが、今回の昭和50年代後半からの11年間の活動史は、貴会の幾多の変遷の中でも、感慨深いものがあるかと存じます。

即ち、昭和57年4月に、それまで別々に行われてきた保・助・看の活動を（社）日本看護協会千葉県支部のもとに統合発足させ、さらに3ヵ月遅れて、千葉県看護協会を設立されるという大変なご苦勞をされております。昭和58年には老人保健法が施行されており、時代の要請に応えた当時の関係者の英断が、今日の千葉県看護協会の基盤を作ったものと拝察いたします。

さて、高齢社会の到来と疾病構造の変化、また国民ニーズの多様化により、従来の個別治療を中心とした医療では対応が困難となり、保健・福祉との連携が求められる時代になりました。特に国においては、増加する要介護老人対策を喫緊の課題として、様々な施策を講じておりますが、施策実現の上で何よりもマンパワーの確保とその効率的活用が重要となっております。多様化するニーズに応えるためにはマンパワーの数はもとより一人ひとりの努力が必要であります。その活動を支援する組織としての協力も不可欠であります。そのため看護専門団体である貴会の役割はますます増大してくるものと存じます。貴会が看護活動を通じて、今後とも県民の保健医療福祉の向上のためさらなる発展をとげられ、県看護協会史に新たな一頁を加えられることを切望し、私の挨拶といたします。

看護会館設立当時の思い出



元千葉県衛生部長

(財)復光会専務理事 杉山太幹

私が千葉県に赴任したのは、昭和58年5月でした。当時の千葉県は、我が国でもトップ・クラスの人口増加県で、特に社会的増加が著しく、間もなく、500万に達すると予想されていました。

このような急激な人口増加に対して、医療施設、医療関係者、特に看護婦の供給が追いつかず、県民はもとより医師会などからも、その対策が強く要望されていました。

看護婦確保対策の柱は、養成定員の増加、職場環境の改善による離職者の防止、有資格者の再就職の促進にあることはだれでも理解できることです。

県はすでに看護短大を創設していましたが、さらに看護専門学校（現在の医療技術大学校）の定数増や養成施設の新設などが計られました。また、定着率の向上を計るためには、医療機関の対応が大きな要因ですが、県は県単独奨学資金制度を実施して、卒業生の県内定着への誘導を計ったのです。

看護協会に期待されたのは、潜在看護力の発掘と再就職の斡旋、再就職のための研修などでした。当時すでにナース・バンクの運営を委託していましたが、看護研修所の一隅で実施している状態で、成果は必ずしも満足するまでには至っていませんでした。

看護協会の幹部の方々は、早くから看護会館建設を望んでいたようですが、新しい組織のスタートに当たってその実現化を目指したようです。当時の赤井会長さんをはじめ、協会幹部の方々が要望書を持って来られました。

それまでの看護会館は、社会福祉センターの一部を間借りしている状態で、会館設立のための資金も準備されているということでした。

協会が自前の活動拠点を持つということは、会員にとっては勿論、協会の社会的立場を確立するうえからも極めて重要なことです。

特に看護協会には看護に携わる人々の専門団体として、社会的に期待される事業が益々増加することが予測されていました。ナース・バンクもその1つですが、単にそれだけで

はありません。

千葉県が急増していた時代ですが、その大部分は若年労働力を主体とする社会的増加であり、やがて急速に老人の団塊層を形成することが予想されました。過疎地の高齢化に次いで、都市部の高齢化が起こるのが通例です。若い県といっても何時までも若さを保っているわけには行きません。

高齢化社会は多病な社会でもあります。このような社会に対応するためには、医療、保健についての多数の専門家を必要とし、それらの人々のネット・ワークが必要となってきます。しかも、医療は日新月异であり、新しい医療技術に対応するためにも技術研修は不可欠です。

また、ノーマライゼーションという点からみると、施設収容以外に在宅医療も増加するでしょう。施設内は看護婦さんが、地域は保健婦さんがなどといった分担は困難になるでしょう。

看護協会の事業は益々多岐に亘り、その重要性が高まる事は必然でした。こうして、昭和59年度の衛生部主要施策のなかに、看護会館の建設助成が加わりました。

まず土地から見付けなければなりませんでしたが、県有地で便利な所をさがすのは容易ではありませんでしたが、皆の努力で現在地を見付ける事ができました。

次ぎは建設資金です。県は1億円を補助し、千葉市、市町村町会にも協力を依頼して5000万円の目途が立ちました。しかし、その額では予算の半分程度で、会員にかなりの負担が掛かります。そこで日本自転車振興会に補助金の申請をすることにしました。幸い、ほぼ申請通りに認められ、建設資金も解決しました。

あれからもう10年以上経ってしまいました。看護協会の事業も予想された通り、拡大の一途をたどり新たに訪問看護ステーションの事業も加わり、施設の規模も拡大されたと聞いています。ここまで成長させた幹部の方々や会員の方々に心から敬意を表する次第です。

これからの高齢社会では、一億総看護婦の時代といわれます。スウェーデンやデンマークなどの先進国では、看護婦、保健婦、介護担当者などがチームを組んで昼夜活動しています。看護を受ける人だけではなく、その人を取り巻く多くの人々に、看護技術を普及させることも必要になってきます。

看護会館を活動の拠点として、千葉県看護協会の一層のご発展を祈ります。

発刊によせて



日本看護協会会長

見 藤 隆 子

千葉県支部の記念誌発刊を心からお祝い申し上げます。

千葉県会員の方々は、昭和57年に千葉県支部の保健婦部会・助産婦部会・看護婦部会を統合され、また、千葉県看護協会も設立なさいました。以来、三職能の力を結集して、千葉県看護会館を建設し、会員の資質の向上に、また、地域住民の保健・医療・福祉の発展に着実な成果をあげられ、県内の看護発展の中心として県民の厚い信頼を築いてこられました。

平成5年に支部を発展的に解消され、千葉県看護協会として結合されるまでのこの時代は、看護職能団体が飛躍したときでもありました。

昭和57年には老人保健法が制定され、高齢化社会に向けて医療・保健が大きく変わり、看護職への期待が高まりました。

平成2年12月には「看護の日」が制定され、毎年5月には各県看護協会にて看護の心を育むための行事が盛大に開催されております。

平成4年には「看護婦等の人材確保の促進に関する法律（人確保）」が制定され、この法律に規定されたナースセンター事業は日本看護協会と共に、各県看護協会にても取り組まれています。

また、平成4年には老人訪問看護制度が作られ、各県看護協会立の訪問看護ステーションも各地で設立されております。

看護教育に目を転じますと、大学化が急速に進んでおります。

このような変化はそれまでの先輩ナース達のご努力の賜物です。その意味で、支部の発展的解消という節目にそれまでの歴史を記録し次の時代の礎とすることは、誠に意義深いことと思われまます。

築いてこられた歴史をふまえて、今後更にご発展されますことを、ご祈念申し上げましてお祝いのことばといたします。



千葉県支部の誕生の思い出

元千葉県支部長

赤井 つる

昭和57年4月24日は三職能が統合されて「日本看護協会千葉県支部設立総会」が開催された記念すべき日であった。開催に至るまでどのような過程を経て支部が誕生したのか後日のために記しておきたいと思う。

別掲組織図にあるとおり本協会も幾多の変遷を経て今日に至っているのかがわかる。従って支部は本協会の動きに左右されながら運営を進めて来たのである。

昭和の中頃から10数年間三職能は別個に支部を設置して運営された時代がある。こうした体系の中から三職能連携の必要性を認めて設置されたのが「支部協議会」である。千葉県では昭和43年に「支部協議会」を設置して昭和57年支部誕生までの期間活動した。

主として連絡調整の任にあたり、組織統合にあたっては意気投合して頻繁に会議がもたれた。統合への準備として基本となるものは支部規約の作成であった。当時本協会から改正案が示されていたが文書知識に乏しく的確な判断が出来ず、苦勞した記憶がある。

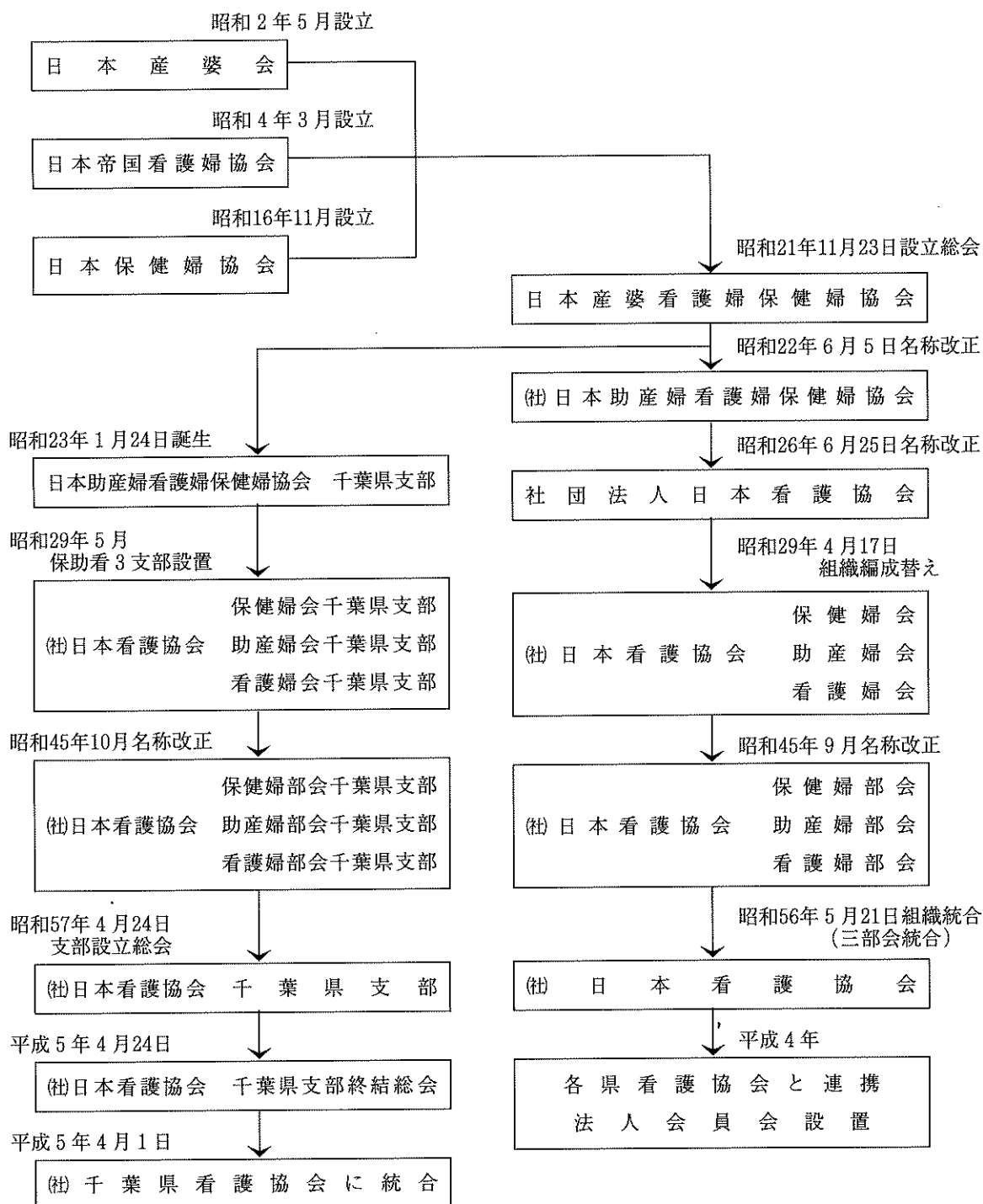
昭和57年の早春、「長柄のふるさと村」に合宿して「支部規約」の作成にとりくんだことがある。保助看三部の役員達が寝食を共にした支部誕生への会議であった。こうしてまとめあげた規約は、本協会に提出して承認を得なければならなかった。又規約と共に支部運営に必要な細則の作成もしなければならなかったが、今、手にしてみると誠にお粗末な細則であった。

支部設立総会の日程は4月24日と決定しその準備に追われることになったが、従来の総会とは異なる準備と内容をどのように進行させるのか、初めての経験で自信のないまま設立総会を迎えることになった。

一方でその頃「社団法人 千葉県看護協会」設立の議案が理事会に提出されていた。この設立総会は57年7月8日と決定されていた。同じ年の4月と7月に二つの会を発足させることになったが、多忙な中でも明るい希望に燃えて懸命の努力がなされた。こんな無理な執行部の方針に協力して下さった会員の皆様に感謝せづにはいられない。その時のご支援が今日の千葉県看護協会の発展につながっているのである。

当時私は支部設立準備の責任者（支部協議会長）であったこと、そして支部終結に際しても最後の支部長であったことは因縁深いものがある。支部とは一般会員の時から長い関係にあり、今回支部史の編集にかかわることになり私にとっては看護の仕事の総括ともなるのでこのめぐりあいを感謝している。

日本看護協会及び千葉県支部の推移





千葉県支部に在籍して想うこと

元千葉県支部長

浅野花子

今回、日本看護協会千葉県支部が45年余に亘る輝かしい歴史の幕を閉じるに当って画期的な大改組を行った昭和57年からの支部活動を纏めることは誠に意義深く、この実現にご尽力下さった担当者の皆様に敬意を表します。

全国に支部を持つ日本看護協会は常に人々と共に在り、社会の看護に期待するニーズの変化と共に幾度かの改組を重ねてきたが、57年度における改組は看護団体としての存在意義を大きく評価づけたものであった。将に「看護はひとつ」の基本的理念を実現した第一歩でもあり、改組後、看護職能団体としての実績は社会的にも確実に認容されるに至ったのである。

改組に至る迄には永い検討期間を要した、最も会員の同意が得難かった要素として従来保健婦、助産婦、看護婦がそれぞれ独立した部会として独自の事業計画のもとに活動を展開し、目的意識が一致した会員により構成された集団（当時はこの感覚が強かった）が統合によってその専門性が失われるのではないかと……。会員数の不均衡が発言の場で不利になるのではないかと等であった。

然しこれ等の不安は改組による職能委員会の新設、討議の場では保健婦、助産婦、看護婦ほぼ同数による構成等により解消した。今迄見落され勝であった職能間の狭間の分野にも連繋の必要性を理解し合えたことである。職能委員会の役割はそれぞれの職能の専門的分野において、自主的活動を最大の柱とし、各職能で抱える事業上の問題点を明らかにし審議解決の方向を模索、直接会長に助言する権限を有した。委員は会員の公進であり委員長は理事として共通の場で各職能の問題点を確認し合い連繋協調して効率的に活動を展開した。

私は改組と共に本協会看護婦職能委員を兼任し常に千葉県支部活動の実態を参考材料として提供したものである。本協会でも理想とし乍らも実現を難かしくしていた三職能による合同集会を開催し、同一課題に対してそれぞれの立場からディスカッションする試みも

全国に先駆けて実現した。

時を同じくして千葉県看護協会設立。共に責任分担をし活動を展開した。当然のこと乍ら運営上の繁雑さは免がれなかったが日本看護協会の定款による支部機能を実質的に存在させたのである。既に多数の県が県看護協会を設立し、支部活動が形骸化されてゆく傾向にあり、定款の改正を望む声が各支部から要請された。本協会としてはこの現状を重視し、61年「協会組織のあり方」検討委員会を発足させた。支部機能を明確に存続している数少ない支部としては私も委員のひとりとなった。

従来までの組織内の改正とは根本的に異なり協会そのものの性格を変えるものとして、専門家の助言も交え慎重な討議を重ねていった。支部に於ても全会員の意見が反映できるよう数回に亘り検討会を設けた。全国的規模で活動する日本看護協会と県看護協会とはそれぞれ法的に認められた独立した組織であり、活動目的を同じくした両者がどのように連携を強められるかが最大の問題点であった。支部長としての短い4年間であったが、全精力を傾けた事がらでもあった。検討半ばにして平成2年度をもって千葉県を離れたが、本協会役員として大きな関心事としてこの推移を見守ってきた。平成4年度をもって支部活動が発展的終焉となったが、現在の揺ぎない組織の土台となった支部活動の歴史は永く後輩に語り継いでゆくことが大切である。

更なる思い出としては、61年度の日本看護学会教育分科会が千葉県支部担当で市川文化会館で開催されたときのこと。シンポジウムの最中に地震発生、1800人の参加者の殆どは席を立つこともなく整然としている中で、発言中の男性講師が、たったひとり机の下に潜りこんでしまい大爆笑になったこと、瞬時にして司会の杉森みどり先生が緊張感を引き出したこと、“女性は強い”を実証したひとこまでもあった。

又63年度支部総会で懸念された本協会会費の5000円という倍額値上げが会員の理解により可決されたこと。平成元年度、支部創立40周年記念式典に支部創設当時の大先輩が多数参加して下さったこと、かつての教育委員が有志でOB会を結成し、自主的研鑽をしていること等々、看護を愛する熱情がひしひしと感じられる。これこそが將に組織力の強さと云えるのではないだろうか。

今後、ますますの千葉県看護協会の発展を期待してやまない。

千葉県支部創立40周年記念式典

日本看護協会千葉県支部 創立40周年記念式典プログラム

日 時 平成元年11月9日(木)

10:00~11:45

於 千葉県看護会館

10:00 開 会

支部長あいさつ

表 彰

元支部長 18名

会 員 40名

職 員 1名

来賓祝辞

11:00 休 憩 (5分)

回 顧 談 元保健婦部会支部長

元助産婦部会支部長

元看護婦部会支部長

11:45 閉 会



あいさつ

日本看護協会千葉県支部

支部長 浅野花子

昭和23年に日本看護協会千葉県支部が設立されて40年を経過しました。

昭和21年敗戦直後、連合軍総司令部公衆衛生福祉看護課の指導のもとに看護職能団体として、三職能がそれぞれ独立していた組織を統合し、「日本産婆看護婦保健婦協会」が設立され（昭和22年、助産婦と名称改正）、看護職の一致協力態勢の基礎が築かれました。以後続々と全県に支部が設立され、千葉県に於ても助産婦会、看護婦会、保健婦会の三者合同で準備会をもち、昭和23年1月24日、千葉大学医学部大講堂に於て、GHQ看護課長ミス・ピキンズ、県知事、県医師会長他多数の先生方の祝福のもとに「日本助産婦看護婦保健婦協会千葉県支部」が誕生しました。

当時の会員数は、保健婦 128名、看護婦 554名（助産婦不明）で、現在の8,000名を越す増加と発展を想うとき、初代役員のご苦勞と共に歴代の支部長はじめ先輩諸姉の並々ならぬご努力と、常に変らぬ県はじめ関係各位の多大な御支援の結果と深く感謝するものでございます。

この40年の流れの中で、社会情勢の変化に伴い、看護職能団体としての使命が果たされるよう、何回かの組織改正が行われております。

現在、国際的な繋がりの中で世界の人々の期待に応え得るような看護活動を展開する程の組織に発展しました。一層の研鑽を重ね、真に住民の健康づくりのよい支援者となれるよう決意をすると共に、ますます千葉県支部の隆盛を祈念するものであります。

本日ここに、千葉県支部創立40周年記念式典を挙行し、先輩の勞に感謝の意を表したいと存じます。

平成元年11月9日

祝 辞

千葉県衛生部長

大 澤 進

本日、ここに日本看護協会千葉県支部創立40周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本支部は、昭和23年1月に設立されて以後、保健婦・助産婦・看護婦の各職能別に支部が誕生し、幾多の変遷に対処されながら、看護の資質の向上、後輩育成のための活動を推進して来られました。

協会が設立された当時は、戦後の混乱期であり看護の大切さが世間で十分認識され、支持されるという状況ではなかったことでしょう。そのため、協会としての活動は、看護のことをより多くの県民に対して啓蒙普及することであったと思います。

それから40年、本支部は、看護活動の拠点として千葉県看護会館を建設され、看護職員の資質の向上および相互の関係を図るとともに県民の健康づくりと福祉の向上に寄与され、8千余名の会員を擁する職能団体として発展されました。ここに、関係各位の御努力に対し深く敬意を表する次第であります。

県では、人口の急増、医学・医術等の進歩により保健医療の需要は増大する一方であり、県政推進の基本目標の第一に「福祉が充実し健康に暮せる千葉県をつくる」ことを掲げ、各種施策を講じております。なかでも看護職員の確保は緊急かつ重要な課題であり、「修学資金の貸付制度」「養成施設整備等の助成」等の施策に取り組んでおります。

このような状況のもと、看護職能団体として社会的に高い評価を受けられている日本看護協会千葉県支部におかれましては、この記念すべき40周年を契機といたしまして、県民の看護職への信頼に応えるべく、会員皆様の相互の連携および資質の向上に努められ、貴支部がますます充実されますことを期待いたしますとともに、本県の保健医療の向上のため、今後一層の御尽力をお願い申し上げます。

終りに、皆様の御多幸と貴支部の御発展を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

千葉県支部40周年によせて



日本看護協会長

有田幸子

日本看護協会千葉県支部がこのたび40周年の記念日を迎えられましたことは、まことに意義深く、お慶び申し上げます。

歳月の流れ速きこと、「白駒の隙を過ぐるがごとく」ですが、昭和23年貴支部の創立時は、戦後の衛生状態や、食糧事情も悪く悲惨な日々の中で、保健婦、助産婦、看護婦の職能が力を合せ、再教育や、社会福祉のための活動、支部だよりを発行するなど、看護の専門職として資質の向上に努めると共に、多様な保健サービス等の地域における看護の供給計画と実践に着実な成果をあげておられます。

本協会でも請願がみのり、GHQ地区軍政部の看護係官の強力な指導のもとに、各都道府県の衛生部に看護行政係が設置され、看護専門職が行政官の位置を占めることになりました。重要なことは医療制度の大きな変革の中で看護制度が総合保健医療の発展に伴う、看護職にふさわしいものに改められたことでした。何事にも歴史的な背景がありそれぞれの重みを今日に受けつぎ、更に将来へと時の流れは人々の英知を織り込んでまいりました。

今、看護は大きな変動期を迎えています。医療システムの変革による看護業務への影響や新職種との有効な関わり、国際化の中での看護の役割等々、私共はこれからの看護をどのように展望し、準備しなくてはならないのか、ライフコースの設計、キャリアの構築の見直しも必要で、より看護の専門性が問われているように思います。

モーイム・キムICN新会長は、これからの4年間の合言葉として「愛」を提唱されました。看護が人々の身近な存在として、親しまれ、信頼され誇り得る社会的評価を維持するために、本協会支部ともに団結を強め、看護に関する社会的使命を果たすため誇り高く前進いたしましょう。

貴支部の益々の御発展を心より祈念します。

40周年おめでとう



元看護婦部会千葉県支部長

赤井つる

支部40周年を迎えることになり、皆様と共にお祝いを申し上げます。

日本看護協会がGHQの指導により戦後の窮乏の最中に誕生したのは昭和22年と年表にあるとおりで、千葉県支部は翌23年に設立されております。

先般支部の30周年にあたり、支部の歴史をこのあたりでまとめておかなければならない必要性を痛感いたしました。つたないものではありませんが記念誌を編集いたしました。その時に先輩の方々が営々として築いてこられた歴史の足跡を知ることが出来ました。

その創設の時より今に脈々と流れる看護の心は、時が移り、人が変わろうと、これのみは変ることなくつづいていることを嬉しく思います。

私の協会活動の参加は昭和30年頃でした。準備委員を振出しに、各種の常任委員会の委員を経験させて頂きました。中でも教育委員は三期つとめました。その頃は現在ほど、量的質的に充実しているとは言えず只会員のために一生懸命活動したつもりです。

又、会計係りをつとめたこともあります。言われるままにホイホイと支出をして、年度末にあわてた記憶があります。私らしく楽天的で、会計には向かないことを知りました。

昭和51年に支部長となりましたが、これまで申し上げた委員、役員についてはすべて看護婦部会千葉県支部の活動で昭和57年に保助看統合の組織改正が行われるまで続けました。

保助看三職能の統合についてはお互いに理解の乏しい中で、不安を持ちながら先の見えない発足でした。しかしその直後に法人設立の目標を掲げておりましたので、この組織統合は非常に有効に作用してくれたと思います。今、統合の7年目を迎えて、お互いに知恵と力を出し合いながら会の運営に当たっている姿を、発足当時は想像出来なかったのです。

高齢化によって益々看護の領域が拡大されようとしている現在、信頼される看護サービスの提供には三者の専門性を統合し、他職種との連携を深めて事に当らねばなりません。この度の40周年記念式に際し、より一層緊密な三者の連携をもって、社会のニーズと八千余名の会員の期待に応えなければならないことを痛感いたします。



心に残る組織統合

元保健婦部会千葉県支部長

實川美奈

日本看護協会千葉県支部設立40周年を迎えたということは、日本の社会の変ほうと共に看護職能団体として様々な活動で成果をあげ、現在の看護制度を築きあげてきたのではないかと思います。

この様な組織に育ってきたなかで私の心の中に深く残るものは、昭和56年度に日本看護協会組織の改革による三部会が統合されたことです。昭和29年来部会組織による活動の中で、県支部レベルでは、支部協議会により三部会の連絡調整が図られてきました。

しかし、本部での組織統合がさげられるようになり、保健婦部会は、当時の会員数（全国）1万5千余名の少数会員でしたから統合による組織運営面でどう位置づけられるか、又当時保健所職員の国庫補助金の交付税へのきり替え問題、市町村保健婦補助金定数削減問題、保健所の統廃合問題等、保健婦に関する問題が山積していました。

従来部会活動として強行に国や関係機関に働きかけをしてきましたが、統合による不安は各県支部同様でありました。これらの不安を抱え統合されましたが、保健婦に関する国の施策問題に日本看護協会として国や関係機関に強行な働きかけがなされました。このことで統合によりそれぞれの職種への理解を深められたことと大変心強く感じました。

昭和57年度に千葉県支部統合を目ざし、支部協議会役員会で準備を進めてきましたが、会費についても三部会に格差があり、又地区支部数についても保健婦部会は保健所管轄単位で看護婦部会は少数地区数でしたので種々の事情でうまく乗り入れていくむずかしさがありました。設立総会は近くなり、支部規約案はまとまらず、集中検討で夜10時過ぎ、翌朝7時からと、互いに真剣な取り組みで、そして互いに認め合う雰囲気の中で支部規約案がまとまりました。

相互理解を深めるチャンスは組織統合がなければ考えられないことではないかと思いました。



日本看護協会千葉県支部 創立40周年によせて

元助産婦部会千葉県支部長
板倉 千栄子

日本看護協会千葉県支部創立40周年おめでとうございます。保助看法の施行された年と同じですから、あれから40年の歳月が過ぎた事、まことに時の流れは早いものだと思います。私も看護協会会員となって33年目をむかえました。

当時、私は看護協会とは何か、右も左もわからぬままに入会し、看護協会の組織を知ったのは昭和32年、千葉大学病院屋階大講堂で行われた看護婦部会の総会でした。日曜日に行われた総会に出席、支部長の挨拶、会計報告をされた方の姿しか思い出せません。

協会での活動は、新米看護婦の参加する場でない印象でした。私自身の認識不足で、助産婦部会に加入することなく、6年間看護婦部会員でした。

昭和38年、看護婦部会、淡路支部長のご支援のもとに助産婦部会を設立し、僅か22名でしたが、同じ千葉大学病院屋階大講堂で発会式を行った時、私は屋根も床もないが、「土台はここ」という感じを受けました。看護協会千葉県支部として統合するまでの15年間に会員数は200余名となり、代議員2人を選出するまでに至りました。この会員増加は当時の事業計画の1番にあげられており、三部会統合時の何よりの財産でした。

統合時の会員数は、看護婦部会5,000余名、保健婦部会500余名、助産婦部会200余名と記憶しておりますが、このアンバランスな対比で、当時助産婦部会支部長の任にあった私は大変不安でした。しかし、1部会として統合したことにより、日本看護協会千葉県支部会員として、又、助産婦職能として発展したことを嬉しく思います。

千葉市新港に位置するこの立派な千葉県看護会館は3部会員1人1人の結集と多くの方々の協力により超スピードで出来たものであり、教育を主体とした協会活動は、時代と共に内容は色濃く巾を広げています。

私達は看護職能として与えられた仕事の範囲を広い視野でみつめ、社会のニーズに応えられるよう研鑽を重ねて行きたいと思います。

最後にこの40周年を大きな節目として、看護協会のますますの発展を祈ります。

淡路 きん	〃	千葉市亥鼻3-9-6
中村 敏	〃	千葉市誉田町2-21-216
新島 キシ	〃	千葉市宮野木1160
星野 ひで	〃	千葉市緑町2-20-3 (神崎方)
赤井 つる	〃	千葉市千城台西1-29-2

3. 日本看護協会千葉県支部長感謝状

鎌田 順子

千葉県看護協会

物 故 者

山本 テイ	保健婦	元支部長
染谷 あい	助産婦	〃
古川 きぬ	看護婦	〃
本吉 チイ	助産婦	〃
国香 哲子	看護婦	〃

支部の沿革

勿論看護代表の熱意ある政治活動によることはいうまでもない。

日本看護協会においては組織の統合、定款細則の改正について全国支部長会の提案を受け、昭和62年度に組織検討委員会を設置してより5年余の年月をかけて支部の発展的解消に踏切ったのである。

千葉県看護協会は日本看護協会の主旨を受入れ定款細則の改正を行い平成5年4月1日を期し支部と県看護協会との統合を実現した。

年 表

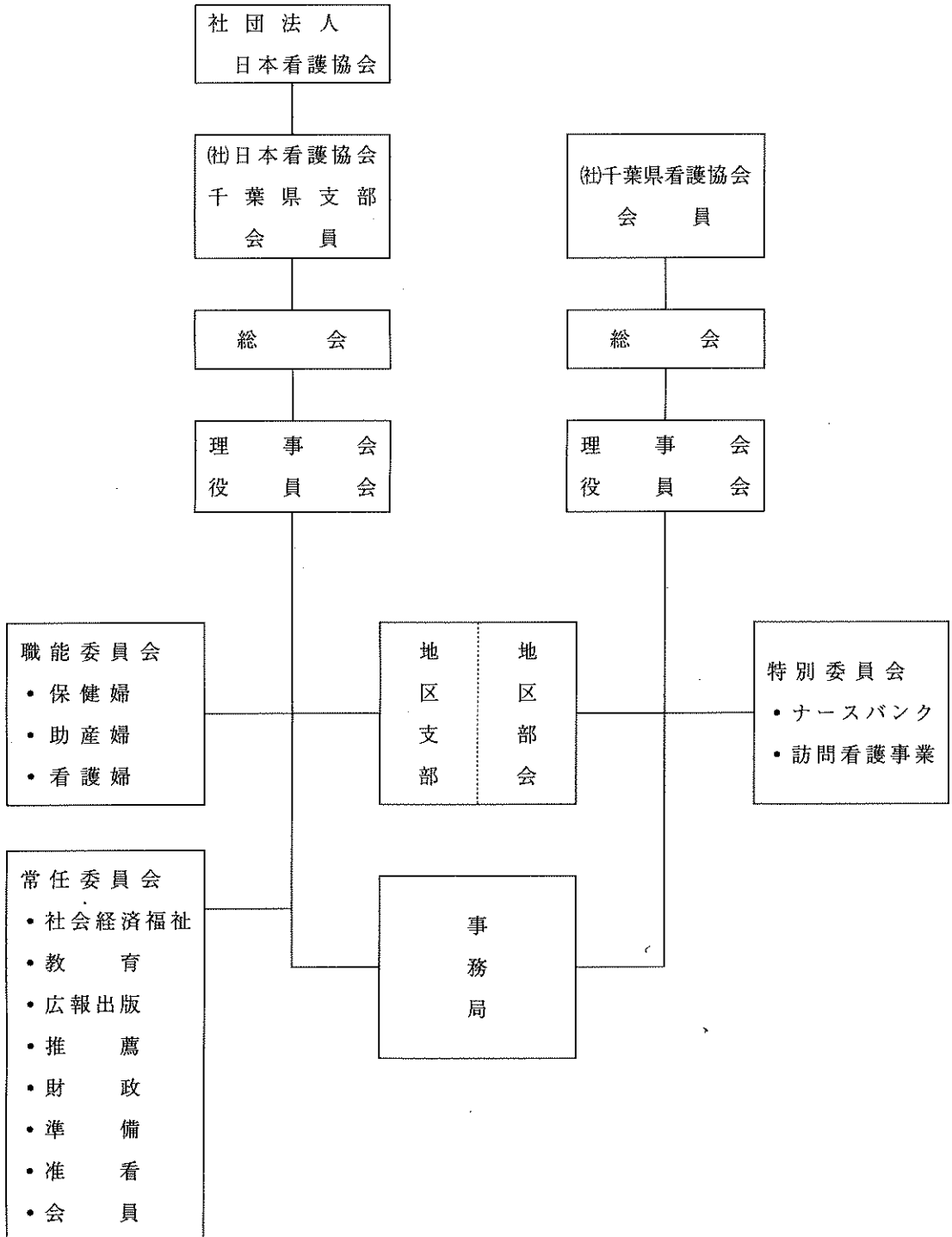
年 月 日	事 項	関 連 事 項
昭和57年 4月24日	社団法人日本看護協会千葉県支部設立総会開催 (支部長 赤井つる) ①支部規約改正の承認 ②3職能委員会新設の承認(保、助、看) 委員長 保 實川 美奈 助 大塚 清子 看 小川トメヨ	<ul style="list-style-type: none"> • 日本看護協会57年度総会 (5.19) • 日本看護協会職能集会 (5.20) • 社団法人、千葉県看護協会 設立総会 開催 (57.7.8)
8月	「支部だより」創刊号の発刊	<ul style="list-style-type: none"> • バージニヤ・オルソン氏 名誉会員として推挙される
9月	関東甲信越地区支部長会を担当(於・千葉市)	
10月	県委託事業の変更(支部から県看護協会に移行)	
昭和58年 2月24日	昭和57年度支部職能集会開催(AM) 昭和57年度千葉県支部臨時総会開催(PM) (補正予算等)(代議員選出) 「支部だより」発行(2号)	<ul style="list-style-type: none"> • 老人保健法の施行 (58.2)
昭和58年 4月26日	昭和58年度千葉県支部通常総会開催 (支部長 赤井つる) ①支部規約改正案提出 ②支部会費と県看護協会会費の調整案提出	<ul style="list-style-type: none"> • 法人総会で看護会館建設について 会員の同意を得る。 • 日本看護協会58年度総会 (5.18) • 日本看護協会職能集会 (5.19) • 県看護協会は訪問看護事業委員会 を設置し将来に備える。

年月日	事 項	関 連 事 項
6 月 7 月11日 10月 8 日	県内新就職者を対象に研修会を開催 第15回日本看護学会成人看護分科会担当による 学会準備委員会発足 支部だより発行（3号、4号、5号） （6号より看護ちばに合併） 准看護婦制度廃止に関するアンケート調査施行	<ul style="list-style-type: none"> 石本参議院議員、環境庁長官に就任
昭和59年 1 月10日 1 月31日 ～ 2 月30日 4 月27日 4 月27日 7 月26日	看護制度改善に関する検討結果を本協会に報告 関東甲信越地区 地域看護研修会担当実施 （於・千葉県経営者会館 4日間） 本協会看護研修センター建設資金の寄付について 会員に呼びかける（1人 6,000円） 昭和59年度千葉県支部通常総会開催 （支部長 赤井つる） 昭和59年度支部職能集会開催 第15回日本看護学会開催（於県文化会館）2日間	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会は9月を老人看護月間として設定し各県支部に月間行事の実施を指示する 日本看護協会59年度総会（5.16） 日本看護協会職能集会（5.17） 千葉県看護会館建設資金として会員1人36,000円の献金の納付決定
昭和60年 4 月18日 4 月26日 9 月15日 9 月17日	昭和60年度支部職能集会開催 昭和60年度千葉県支部通常総会開催 （支部長 赤井つる） 支部規約改正案（名称及び字句の改正） 老人看護月間行事実施（於・千葉市中央公園） 関東甲信越地区母性小児看護研修会実施 （9月17、18）	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県看護会館建設工事着工 日本看護協会60年度総会（5.15） 日本看護協会職能集会（5.16） 厚生省 看護教育100周年に関し厚生大臣表彰を行う（5名） 日本看護協会は訪問看護開発室を設置する。
昭和61年度 3 月31日 5 月13日 5 月30日	千葉県看護会館建設工事完了 千葉県看護会館竣工式及び竣工祝賀会開催 昭和61年度千葉県支部通常総会開催 （支部長 浅野花子）	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会61年度総会（5.21） 日本看護協会職能集会（5.22） 厚生省、医療計画策定指針の作成を各県に指示 看護進路相談事業、県より委託

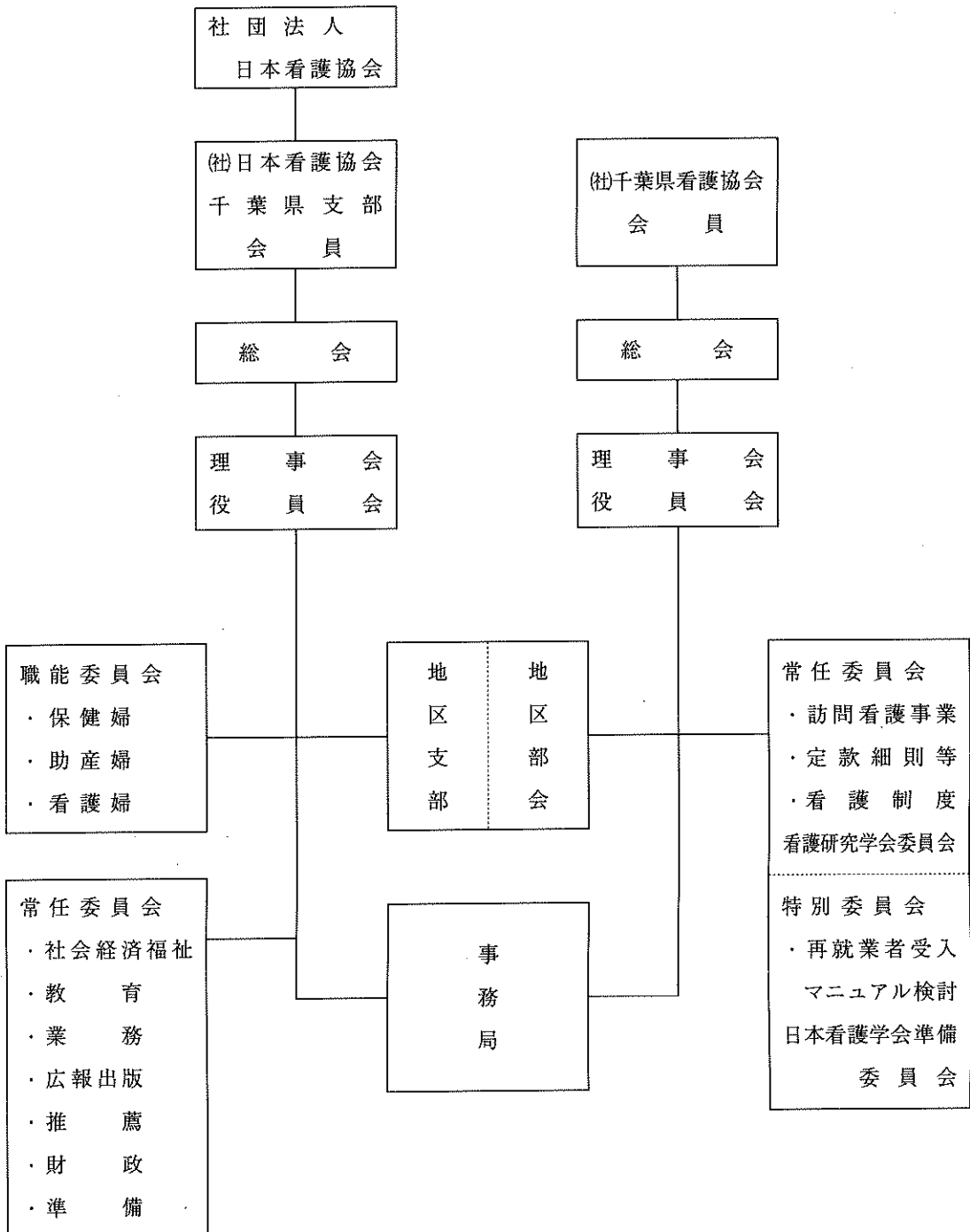
年月日	事 項	関 連 事 項
6月10日	昭和61年度支部職能集会開催 支部規約の改正承認 (5ブロックを6ブロックに変更) 教育企画検討会発足 看護制度問題検討会発足	<ul style="list-style-type: none"> 男女雇用機会均等法施行 清瀬看護研修センター完成 訪問看護経験交流会開催
9月15日	老人看護月間行事実施(於・千葉市中央公園)	
昭和62年		
4月24日	昭和62年度支部職能集会開催	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士 介護福祉士誕生
5月22日	昭和62年度千葉県支部通常総会開催 ①地区支部規約案(保留継続)(支部長 浅野花子) ②常任委員会の廃止と新委員会の設置 (会員、規約、准看護婦……廃止) (看護制度委員会……新設)	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会62年度総会(5.14) (創立40周年記念式典挙行) 日本看護協会職能集会(5.15) 第14回千葉県看護大会(11.11) 千葉県医療計画案策定中 厚生省、看護制度検討会 報告書発表
7月22日	第19回日本看護学会教育分科会準備委員会発足	
9月13日	老人看護月間行事実施(於・千葉市中央公園)	<ul style="list-style-type: none"> 老人保健法改正(63.1)
10月27日	関東甲信越地区准看護婦研修会実施(4日間)	<ul style="list-style-type: none"> 本協会、組織検討委員会設置
～10月30日	於・千葉県看護会館	
12月	協会組織のあり方検討結果の報告 本協会費の値上げについて会員の理解を求める	<ul style="list-style-type: none"> 県看護協会は「老人看護電話相談」 事業を開設(62.7)
昭和63年		
1月23日	合同理事会で沼田知事夫人の招聘について検討	
4月27日	63年度千葉県支部通常総会開催 (支部長 浅野花子) ①支部規約の一部改正案承認 支部役員の改選に関する事項(第10章20条) ②本協会会費の値上げ案承認 2,500円を値上して5,000円とする。 ③地区支部規約の承認	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護モデル事業の訪問看護婦 養成講習会実施(9月1日～30日) 厚生省 訪問看護等在宅ケア総合 推進モデル事業実施(於 松戸市) 厚生省 看護学校カリキュラム検 討委員会設置
5月19日	昭和63年度支部職能集会開催	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改正(特三類)
8月4日	第19回日本看護学会、看護教育分科会開催	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会63年度総会(5.25)
～8月5日	於・市川市文化会館	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会職能集会(5.26)

年月日	事 項	関 連 事 項
9月17日	老人看護月間行事実施 於・千葉市中央公園	<ul style="list-style-type: none"> ・大森文子前協会長叙勲祝賀会 ・ICM大会 於・韓国ソウル市
平成元年 3月	関東甲信越地区看護研究学会準備委員会発足	<ul style="list-style-type: none"> ・准看護婦制度廃止に向けて署名運動展開
4月27日	平成元年支部通常総会開催（支部長 浅野花子） ①看護制度改正の推進について 准看護制度の廃止、免許、教育に関すること 専門看護婦に関すること ②協会組織の改正について 支部と県法人の2本建運営を1本にするための提案について1年間支部段階で検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICM日本大会開催準備 ・日本看護協会平成元年度総会 (5.17) ・日本看護協会職能集会 (5.18) ・本協会に訪問看護推進検討会を設置する
5月12日	平成元年度支部職能集会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県看護協会は第一回訪問看護婦養成講習会を実施（120時間）
9月15日	老人看護月間行事実施 於・千葉市中央公園	
10月17日 ～10月18日	関東甲信越地区看護研究学会開催 於・浦安市文化会館	
11月9日	支部創立40周年記念式典開催 於・千葉県看護会館	
平成2年 1月	教育担当職員の採用決定（平成2年4月より）	
4月20日	平成2年度支部通常総会開催（支部長 浅野花子） 本協会提示の定款細則改正案説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ICM日本大会に向けて会員募金、一般寄付の受入れ開始
5月25日	平成2年度支部職能集会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会2年度総会(5.16) ・日本看護協会職能集会 (5.17)
9月29日	老人看護月間行事実施 於・千葉市中央公園	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生省 医療法改正案提示
10月2日	第22回ICM日本大会開催（1990） 於・神戸市 10月2日～6日 各種会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院、療養型病床群の人員配置等について
10月12日	10月7日～12日 全体会及び分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生省 老人保健法改正案（訪問看護ステーション関係）
11月20日	本協会定款細則改正案会員討議の結果を報告	
11月20日	「看護の日」及び看護週間制定される 「看護の日」は毎年5月12日と決定 「看護週間」は「看護の日」を中心として1週間	

(社)日本看護協会千葉県支部及び千葉県看護協会組織機構
(昭和57年度)



(平成4年度)



表彰者名簿

【叙 勲】

年度	表彰内容	氏名	職種	施設名
昭和57年度	勲六等宝冠章	成 沢 たかよ	看	松戸市立病院
	勲五等瑞宝章	星 野 ひで	〃	元千葉大附属病院
昭和58年度	勲六等瑞宝章	軽 込 きぬ子	助	自 宅
	勲六等宝冠章	沼 部 トモ	〃	〃
	〃	吉 野 澄江	〃	〃
	〃	大 塚 マス	看	〃
	黄 綬 褒 章	小 山 高子	保	
昭和59年度	勲五等瑞宝章	黒 井 春子	看	元千葉大附属病院
	勲六等宝冠章	西 崎 歌子	〃	
	勲六等旭日章	磯 野 国松	看(士)	
	勲六等瑞宝章	斉 藤 美和	看	元九十九里ホーム病院
	勲七等宝冠章	関 川 セイ	〃	
	勲五等瑞宝章	中 尾 アヤ子	〃	元千葉労災病院
昭和60年度	勲六等宝冠章	井 川 信子	看	元千葉社会保険病院
	勲五等瑞宝章	三 橋 千代	〃	特別養護老人ホーム上総園
	勲六等宝冠章	小 林 二三野	助	浅井病院
	〃	宮 田 ちか	〃	
	〃	鎗 田 久子	看	
	勲六等旭日章	三 枝 一郎	〃	元千葉大附属病院
	勲六等宝冠章	行 木 あさ	〃	
昭和61年度	勲五等瑞宝章	守 屋 貞子	看	元国立習志野病院
	〃	丸 山 キヨ	〃	元国立療養所下志津病院
	勲六等宝冠章	森 とく	〃	元千葉大附属病院
	〃	岩 内 常子		
	〃	林 幸枝		
昭和62年度	勲五等瑞宝章	宇 部 ふさ	助	千葉大附属病院 国立習志野病院看護学校 復光会総武病院 児童愛護会一宮学園
	勲六等宝冠章	石 原 マツエ	看	
	〃	子 安 喜代子	〃	
	〃	根 本 よし	〃	
	勲六等宝冠章	春 山 志づゑ	〃	
	勲六等瑞宝章	大 岩 美称	〃	

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名
	勲七等宝冠章 勲五等瑞宝章 勲六等瑞宝章 ♪ 勲五等瑞宝章	鈴 木 せ つ 江野沢 数 枝 加 藤 正 子 田 中 カツ子 根 本 は る	看 ♪ ♪ ♪ ♪	天津小湊町役場 元君津中央病院 元東京歯科大市川病院
昭和63年度	勲五等瑞宝章 ♪ 勲六等宝冠章 勲五等瑞宝章 勲六等宝冠章 ♪ ♪ 勲七等宝冠章	中 村 まき子 梨 木 フミエ 加 瀬 く ら 宇津木 オツル 木 川 安 子 平 田 喜美子 吉 野 美代子 長 友 た か	看 ♪ 助 看 ♪ ♪ ♪ ♪	中村病院 元国立国府台病院 元千葉大附属病院 元国立療養所下志津病院 元県立東金病院 元国吉病院
平成元年度	勲五等瑞宝章 勲六等宝冠章 ♪ ♪ ♪ 勲六等瑞宝章 勲五等瑞宝章 ♪ 勲六等宝冠章 ♪ ♪ 勲六等瑞宝章	大 塚 春 雄 石 井 清 子 大 森 も と 小 倉 志 げ 山 田 澄喜子 岩 瀬 順 子 市 野 カツ子 大 塚 千 代 青 木 久 代 石 井 作 松 岡 タ ケ 菅 谷 す み	看 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪	元千葉大附属病院 元成田赤十字病院 元川鉄千葉病院 元千葉大附属病院 元社会保険千葉病院
平成2年度	勲六等宝冠章 勲五等瑞宝章 勲六等宝冠章	中 村 よし子 石 川 咲 子 江 沢 カスミ	看 ♪ ♪	元千葉大附属病院 元旭日中央病院 元県立佐原病院
平成3年度	勲六等宝冠章 ♪ ♪ ♪ 勲七等宝冠章 勲五等瑞宝章 ♪	小 野 ミ エ 坂 井 豊 子 榊 原 さと子 深 山 き よ 仲 条 千代子 福 澤 政 子 小 川 ちづ子	看 ♪ ♪ ♪ ♪	元銚子市立病院 元長生病院 元同和会千葉病院

年度	表彰内容	氏名	職種	施設名
平成3年度	勲六等宝冠章	田岡 静	看	元柏戸病院
	〃	深山 芳枝	〃	元千葉大附属病院
平成4年度	勲五等瑞宝章	伊東 淑子	看	元国立横浜病院
	〃	田河内 ツル子	〃	元国立国府台病院
	勲六等宝冠章	石津 金子	〃	元小見川中央病院
	〃	片岡 良子	〃	元千葉大附属病院
	勲六等瑞宝章	戸枝 ミチ	〃	元千葉市桜木園
	〃	長洲 美智子	〃	元県立佐原病院

【大臣表彰】

年度	表彰内容	氏名	職種	施設名
昭和57年度	厚生大臣表彰	赤井 つる	看	千葉県看護協会
	〃	浅野 花子	〃	社会保険船橋中央病院
昭和60年度	厚生大臣表彰	根本 よし	看	国立習志野病院附属看護学校
	〃	笠田 おさの	〃	
昭和62年度	厚生大臣表彰 (協会創立40周年)	越川 はる	保	千葉県母子衛生研究会
	厚生大臣表彰	加瀬 くら	助	千葉県看護協会
平成3年度	厚生大臣表彰 (保健婦制定50年)	大 藪 智子	保	元千葉県衛生部
	厚生大臣表彰 (保健婦制定50年)	三 村 芳子	〃	千葉市保健所

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名	
昭和58年度	知事表彰（看護精励賞）	木 川 安 子	看	県立東金病院	
昭和59年度	知事表彰（看護功労賞）	池 宮 と く	保	厚生農業協同組合連合会	
	〃	増 田 久 子	〃	柏市役所	
	〃	天 笠 ト シ	〃	君津市役所	
	〃	大 関 夏 子	助	開 業	
	〃	椎 名 幸 子	〃	〃	
	〃	大橋外 茂 枝	〃	〃	
	〃	山 田 多 喜	看	国立習志野病院	
	〃	金剛寺 マ サ	〃	木野崎病院	
	〃	梶 木 も も よ	〃	成田赤十字病院	
	〃	杉 山 さ く	〃	白百合会大多喜病院	
	〃	(看護精励賞)	山 口 ト メ	保	八日市場市保健センター
	〃	〃	江波戸 い し	〃	八日市場市養護老人ホーム
	〃	〃	稜 川 喜 久	助	武久産婦人科医院
	〃	〃	清 水 よ ね	〃	開 業
	〃	〃	渡 辺 す み	〃	〃
	〃	〃	石 橋 多加子	〃	〃
	〃	〃	野 田 昌 江	看	千葉社会保健病院
〃	〃	大 塚 芳 春	〃	中村病院	
〃	〃	丸 島 す ま	〃	特養老人ホーム	
〃	〃	飯 田 裕 子	〃	芙蓉会五井病院	
昭和60年度	知事表彰（看護功労賞）	箕 輪 と し 子	保	佐原保健所	
	〃	高 野 花 子	〃	海上町役場	
	〃	丸 嶋 阿 き 子	〃	厚生農業協同組合連合会	
	〃	富 谷 み つ	助	開 業	
	〃	中 北 こ と 子	〃	〃	
	〃	熱 田 美 代 子	〃	〃	
	〃	林 む つ	〃	〃	
	〃	高 梨 も と	看	国立千葉病院	
	〃	木 村 静 子	〃	野田准看護専修学校	
	〃	西 澤 志 津 江	〃	国立療養所下志津病院	
	〃	(看護精励賞)	三 浦 博 子	保	本埜村保健センター
	〃	〃	及 川 た き	〃	野栄田役場
	〃	〃	井 口 雅 代	助	開 業
	〃	〃	平 川 つ る	〃	〃

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名
昭和60年度	知事表彰（看護精励賞）	重 田 や い	助	開 業
	〃	菊 間 文	看	千葉市立病院
	〃	千 早 美和子	〃	菊田会習志野第一病院
	〃	小 野 ミ エ	〃	復光会総武病院
	〃	黒 萩 チ イ	〃	国立療養所松戸病院
〃	三 平 静 江	〃	君津中央病院大佐和分院	
昭和61年度	知事表彰（看護功労賞）	熱 田 婦美江	保	厚生農業協同組合連合会
	〃	石 橋 さ た	〃	旭保健センター
	〃	及 川 せ い	助	開 業
	〃	大 森 文 子	〃	〃
	〃	北 村 よし乃	看	千葉大附属病院
	〃	森 本 美 代	〃	東京歯科大市川病院
	〃	岡 野 俊 子	〃	成田赤十字病院
	〃	榊 原 さと子	〃	銚子市立病院
	〃	大 塚 千 代	〃	大塚病院
	〃	飛 田 ト シ	〃	大日方医院
	〃	(看護精励賞) 鈴 木 ゆ き	保	特老楽寿園
	〃	木 島 まり子	〃	白子町役場
	〃	斉 藤 み ち	助	開 業
	〃	斉 藤 ふじ子	〃	〃
	〃	沢 田 ハ ル	〃	〃
	〃	沢 田 ハ ル	〃	〃
	〃	前 田 ち よ	〃	〃
	〃	八 木 まさ子	看	中村病院
	〃	太 田 キ セ	〃	海上療養所
	〃	積 田 キ ク	〃	県立鶴舞病院
〃	中 村 民 男	准	復光会総武病院	
昭和62年度	知事表彰（看護功労賞）	菅 谷 うた子	保	自 宅
	〃	林 竹 子	〃	〃
	〃	大 川 ふ み	〃	三芳村役場
	〃	富 塚 近	助	開 業
	〃	須 藤 ふ じ	〃	〃
	〃	樋 口 玲 子	看	復光会総武病院
	〃	柿 沼 久 枝	〃	国立佐倉病院
〃	富 田 二三枝	〃	国立療養所千葉東病院	

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名
昭和62年度	知事表彰（看護功労賞）	齊 藤 扶美子	看	千葉大附属病院
	〃	高 橋 和 子	〃	国保成東病院
	〃（看護精励賞）	向 斐 子	保	松戸市役所
	〃	嶋 根 フ ミ	助	開 業
	〃	君 津 君	〃	〃
	〃	相 田 若 子	〃	〃
	〃	福 田 加代子	看	国保旭中央病院
	〃	大 塚 春 雄	〃	渡辺医院
	〃	峰 島 末 子	〃	渡辺医院
	〃	鈴 木 節 子	〃	京友会病院
	〃	石 丸 輝	〃	国立下総療養所
	〃	大 原 豊	准	国保郡南病院
昭和63年度	知事表彰（看護功労賞）	松 本 良 子	保	厚生農業組合連合会
	〃	酒 井 トクエ	〃	元東金病院
	〃	栗 山 幸 代	〃	八千代保健センター
	〃	染 谷 美 代	助	開 業
	〃	徳 田 た け	〃	〃
	〃	森 と よ	助	〃
	〃	市 野 カツ子	看	特別養護老人ホーム松岡園
	〃	山 崎 た け	〃	千葉労災病院
	〃	鈴 木 栄 子	〃	国保国吉病院
	〃	中 村 美恵子	〃	国立千葉病院
	〃（看護精励賞）	鈴 木 よ し	保	元光町役場
	〃	安 西 ゆ き	助	開 業
	〃	山 田 み つ	〃	〃
	〃	八 木 ふ く	〃	〃
	〃	堀 江 喜 江	看	藤倉病院
	〃	渡 辺 照 子	〃	岡田病院
	〃	小早瀬 千代	〃	市川夜間救急診療所
〃	須 藤 う め	〃	鴨川国保病院	
〃	丸 山 展 子	准	復光会総武病院	
〃	吉 野 美津子	〃	松戸市立病院	
平成元年度	知事表彰（看護功労賞）	北 島 は な子	保	厚生農業組合連合会
	〃	牧 野 敏 子	助	開 業
	〃	佐久間 翠	〃	〃

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名
平成元年度	知事表彰（看護功労賞）	實 方 き わ	助	開 業
	〃	神 田 君	看	佐原准看学校
	〃	秋 葉 き み	〃	夷隅准看学校
	〃	野 坂 仲 子	〃	岡田病院
	〃	大 野 時 子	〃	千葉大附属病院
	〃	星 晴 子	〃	一条会病院
	〃	久保田 晴 子	〃	国保成東病院
	〃（看護精励賞）	鬼 島 ぎ ん	保	大網白里町役場
	〃	八 代 く に	助	開 業
	〃	高 橋 み な	〃	〃
	〃	古 川 百合子	看	県立東金病院
	〃	戸 枝 ミ チ	〃	千葉市桜木園
	〃	伊 藤 ト メ	〃	中村病院
	〃	佐 野 恵津子	看	国立千葉病院
	〃	平 野 富 久	〃	国保小見川病院
	〃	宇 賀 昌 子	准	松戸市立病院
	〃	石 塚 京 子	〃	野田市民部保健センター
平成2年度	知事表彰（看護功労賞）	司 関 節 子	保	東葛ナースバンク
	〃	渡 辺 行 栄	〃	市原市役所
	〃	坪 井 妙 子	〃	千葉市役所
	〃	根 来 静	助	開 業
	〃	忍 田 ち ゃ	〃	〃
	〃	兒 玉 ト シ	看	旭中央病院
	〃	半 田 志穂子	〃	放送大学保健室
	〃（看護精励賞）	関 たけ子	保	元勝浦市役所
	〃	高 橋 昌 子	助	開 業
	〃	及 川 功	〃	〃
	〃	久野田 総	〃	〃
	〃	田 中 美代子	〃	〃
	〃	谷 内 美智子	看	国立療養所松戸病院
	〃	岩 瀬 一 子	〃	京友会病院
	〃	唐 津 孝 子	〃	長生村国保直営診療所
	〃	伊 藤 エツ子	〃	鎗田病院
	〃	篠 塚 保	准	旭中央病院

【日本看護協会会長表彰】

年 度	表 彰 内 容	氏 名	職 種	施 設 名
昭和57年度	日本看護協会会長賞	根 本 奇 子	保	千葉県野田保健所
	〃	板 倉 千栄子	助	千葉大附属助産婦学校
	〃	森 と く	看	千葉大附属病院
昭和58年度	日本看護協会会長賞	中 尾 アヤ子	看	千葉労災病院
昭和59年度	日本看護協会会長賞	太 田 あ い	保	千葉県松戸保健所
昭和60年度	日本看護協会看護教育 100周年記念表彰	星 野 ひ で	看	千葉大附属看護学校
	〃	板 倉 千栄子	助	千葉大附属助産婦学校
	〃	布留川 輝 子	看	小見川看護婦学校
	〃	小井土 可弥子	看	特別養護老人ホーム上総園
	〃	福 澤 政 子	〃	同和会千葉病院
昭和61年度	日本看護協会会長賞	行 木 秀	保	市川保健センター
昭和62年度	日本看護協会創立 40周年記念感謝状	大 野 菊 衛	看	元国立国府台病院
	日本看護協会創立 40周年記念表彰	大 藺 智 子	保	千葉県衛生部
昭和63年度	日本看護協会会長賞	三 村 芳 子	保	千葉市保健所
平成元年度	日本看護協会会長賞	小 川 トメヨ	看	船橋市立医療センター
平成2年度	日本看護協会会長賞	司 関 節 子	保	千葉県柏保健所
平成3年度	日本看護協会会長賞	湊 久 代	助	東京歯科大市川病院
平成4年度	日本看護協会会長賞	赤 坂 守 保	看	国保旭中央病院
平成5年度	日本看護協会会長賞	實 川 美 奈	保	千葉県看護協会